

崇城大と熊本県「ワサモンのまちづくり」

福岡市だけじゃない 起業家育成

学生、ビジネス計画競う

熊本県は、崇城大（熊本市西区、中山峰男学長）と連携し、起業を目指す若者育成に力を入れる「ワサモンのまちづくり推進事業」に乗り出した。実践的な起業教育で注目を集める崇城大のノウハウを活用し、産業と雇用創出を図る事業で、日本を飛び越え、南米進出を図る卒業生もいる。

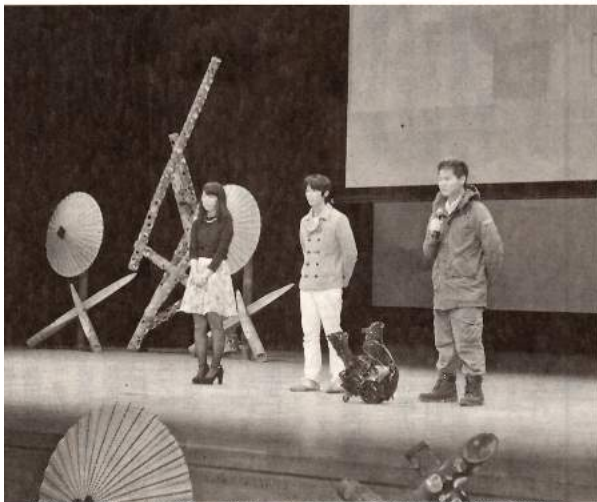
1月23日、熊本市中央区の市民会館崇城大学ホールで、起業を目指す学生がビジネスプランを競う「崇城大学ビジネスプランコンテスト」が開かれた。

応募総数100組の中から予選を通過した7組がプランを発表した。学生は、スクリーンを使って、自分たちが発案した製品やサービスを紹介し、市場性や収益性、独創性をアピールした。日本を代表する投資家や起業家が審査員を務めた。審査の結果、崇城大生物生命学部3年女子2人組のUNIT「地方創生マーケティング事業」が球磨焼酎リキュールの開発販売が優勝し、起業資金50万円を

■新しもの好き

同コンテストは昨年、崇城大が始めた。今年からは、崇城大と協力して進める「ワサモンのまちづくり推進事業」の一つに位置づけられた。ワサモンは熊本の方言で「新しもの好き」を意味する。事業は「熊本への人の流れを創るとともに、人材の流出を抑制する」ことを目標に掲げる。

主催者には新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）も加わり、県内学生に広く応募を呼びかけた。この結果、大学が主催するコンテストとして、



起業を目指し、ビジネスプランコンテストで事業計画を発表する学生ら

獲得した。

■南米で芽吹く

この「ワサモン」のサポートで、起業家は着々と育っている。昨年のコンテストで、「南米コロンビア」のカレーチェーンを提案し、優勝した同大工学部卒業生の加曾利亮地氏（24）は、現地で移動式カレー店「NINJA KAREE」をオープンした。

加曾利氏の父は日本人、母はコロンビア人だ。母の里帰りに合わせて年2回ほどコロンビアを訪れた際、日本のカレーライスが現地でも注目されていることに気づいた。だが、日本風のカレーライスを提供する店はあまりない。ここにビジネスチャンスを見いだしたという。

移動式店舗に続き、本年中にレストランを開店する計画を持つ。セントラルキッチン（集中調理施設）も作り、同国を拠点に南米全

体にチェーン展開しようと夢を描く。加曾利氏は「やってみて必要なことがわかってくる。考えているだけではダメで、一步を踏み出すことが大切」と後輩にエールを送った。崇城大は今後、起業家育成のホームページ作成や試作品開発の支援や、若

者対象の起業教育にさらに積極的に取り組む。県産業支援課の岡山公明課長補佐は「残念だが熊本には魅力的な働き場がない」と、若い人が県外へ流出している状況がある。起業も就職の選択肢の一つであり、若者が県内で起業できるように応援したい」と述べた。